

# サービス提供から 「リエイブルメント」へ

## C型事業所 実装からの学びと提言

---

京都橘大学 健康科学部作業療法学科  
小川敬之

## 【略歴】

小川敬之（おがわのりゆき）：福岡県北九州市出身

- 認知症専門作業療法士
- 京都橘大学 健康科学部作業療法学科

### < 学歴 >

労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校作業療法学科卒業（作業療法士免許取得）

宮崎大学大学院（内科学講座 循環体液制御学分野）卒業（医学博士；慢性腎臓病関連）

### < 職歴 >（臨床15年、教育/臨床23年）

1986年 神戸労災病院（整形疾患中心のリハ：ハンド、頸椎症、CVA）

1990年 日本赤十字社 今津赤十字病院 認知症治療病棟 OT主任

1998年 日本赤十字社 特別養護老人ホーム 豊寿園 生活指導兼訓練係長

2000年 九州保健福祉大学 保健科学部 作業療法学科

2012年 NPO法人 地域支援センター つながり 理事長

2016年 合同会社 SA・Te 黒潮 副代表

2018年 京都橘大学 健康科学部

2019年 京都大学医学部 非常勤講師

2020年 NPO法人 地域共生開発機構 ともつく 副理事長

2021年 東京都健康長寿医療センター研究所 協力研究員

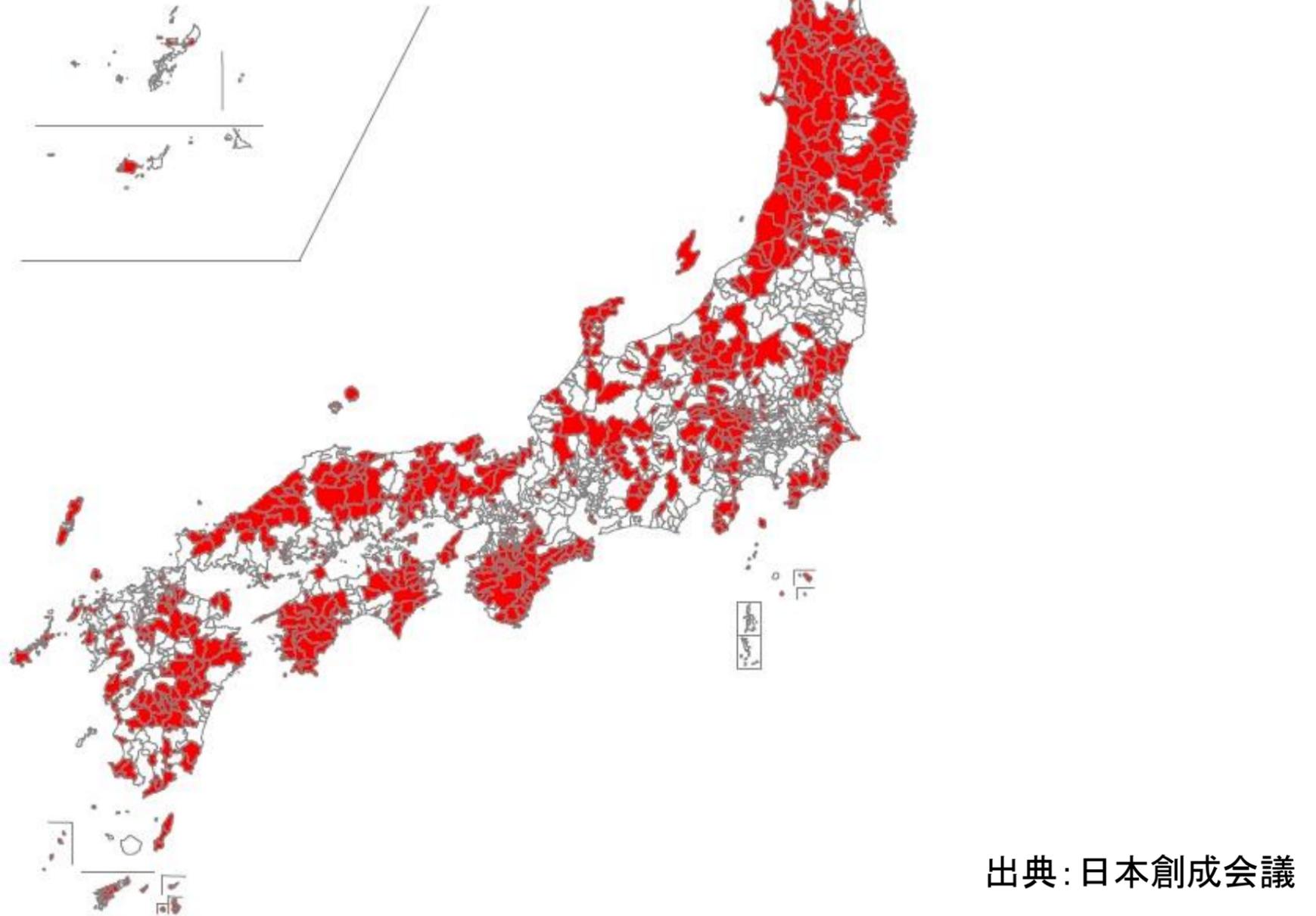
2024年 交野市第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進審議会委員

2025年 交野市地域包括支援センター会長



## 消滅危惧市町村 896自治体

2040年までに・・・



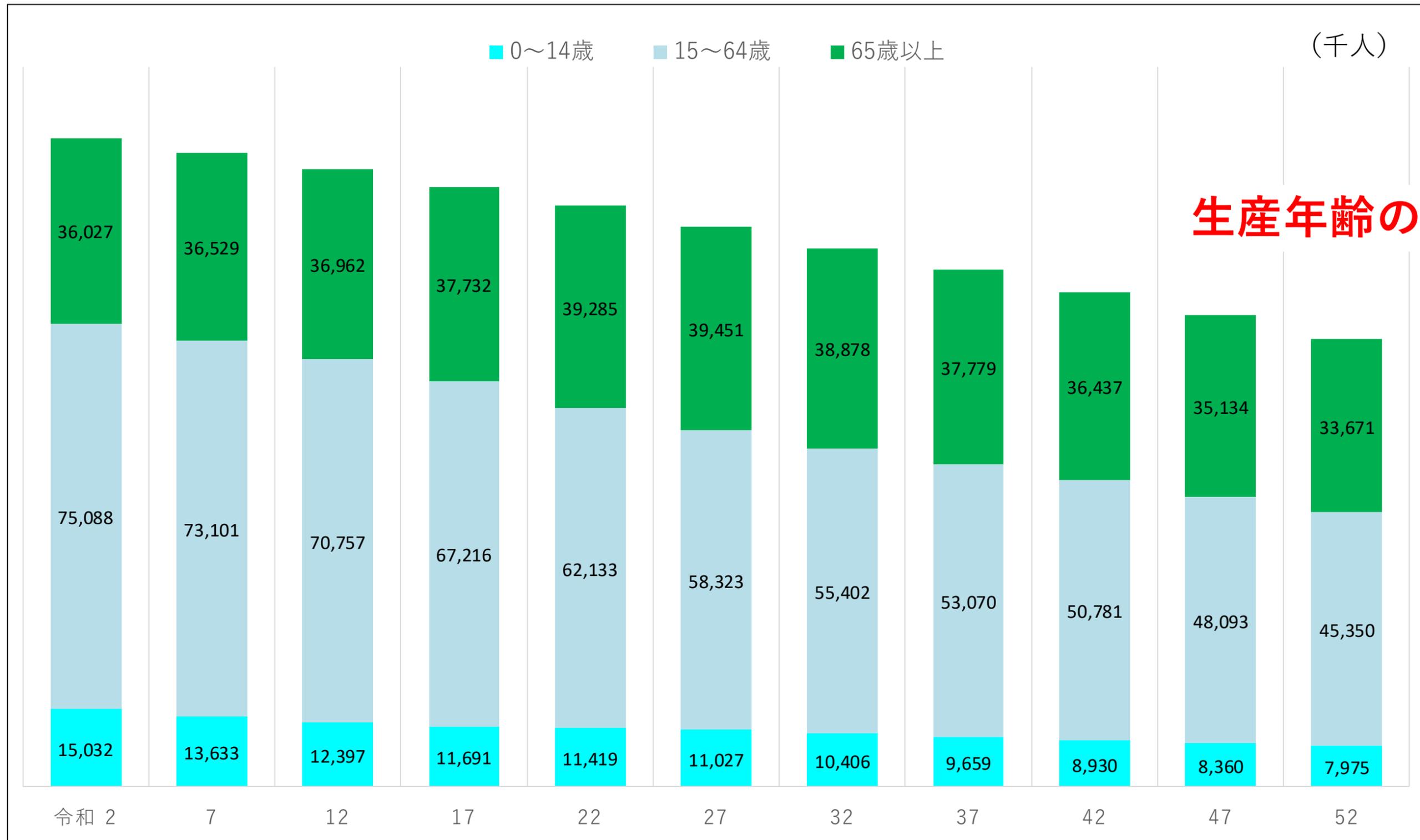
少子高齢化は自治体の存続にも影響してくる

市町村数 1,718市町村（市 792 町 743 村 183）

※北方領土の6村を含めると1,724となる  
(2023/10)

出典：日本創成会議

# 日本の総人口年齢3区分別人口（出生中位・死亡中位）推計



万引き

長品入

少子高齢化

人手不足

ハラスメント

待機児童

食料自給率

空き家

# 社会問題

人口減少社会

所得格差

男女格差

あおり運転

LGBT

老老介護

食品供給

保健・医療・福祉の切り口からだと・・・

**ライフスタイルの課題と高齢化に伴う**

**「フレイル」「要介護」の取り組みは喫緊の課題**



## 令和5年度患者調査（傷病数が100万人を超えた疾患及び関連疾患）

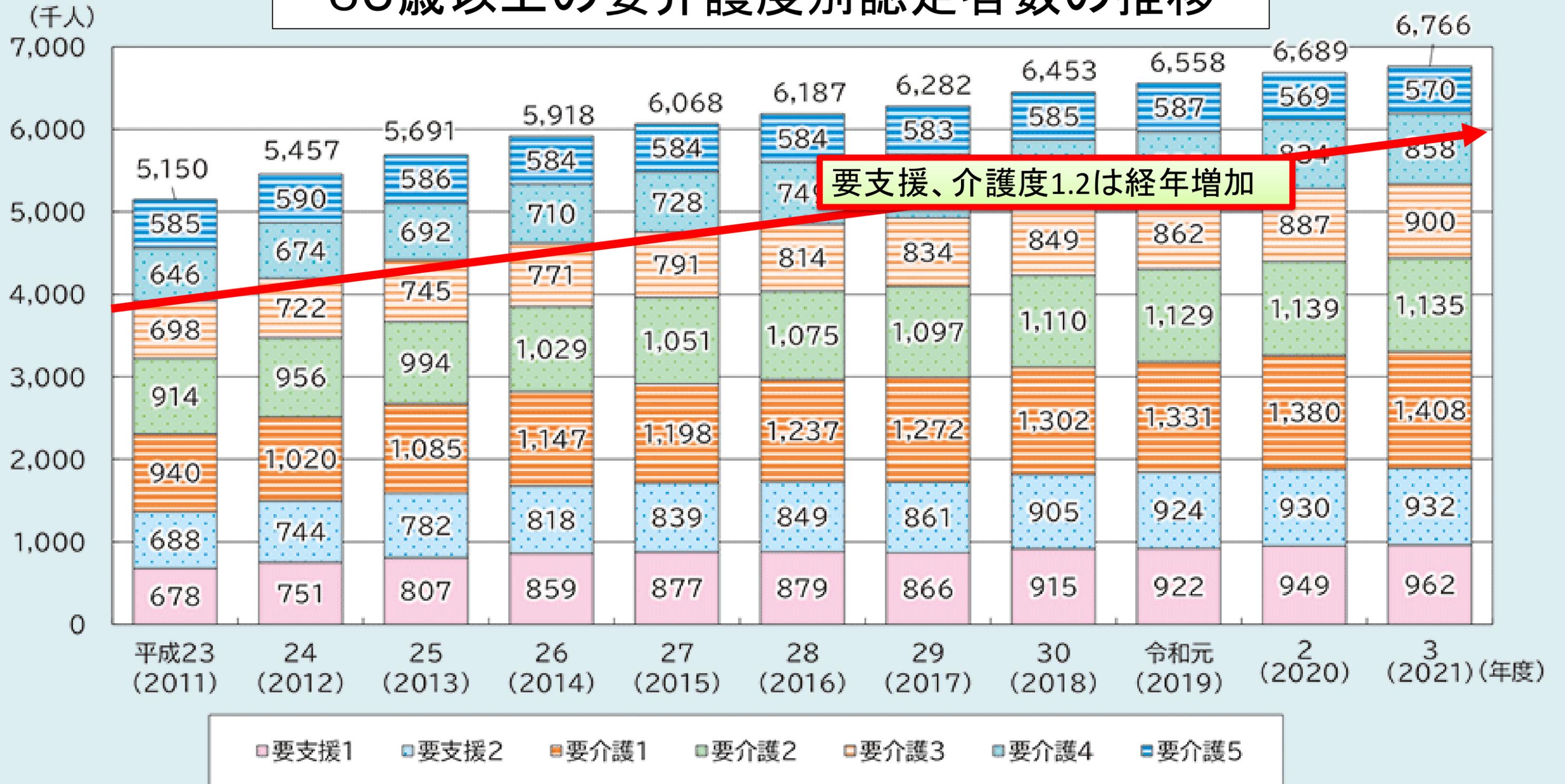
傷病名	令和5年	令和2年	増減
本態性高血圧	16092	15033	▲ 1059
悪性新生物	3939	3656	▲ 283
心疾患	3581	3055	▲ 526
2型糖尿	3639	3699	▼ 60
脳血管疾患	1884	1402	▲ 482
脂質異常	4584	4010	▲ 574

日本生活習慣病予防協会  
<https://seikatsusyukanbyo.com/>

国民の健康状態が**動的**に変化することを前提とした各疾患分野における予防対策を行った場合の60歳以上の医療費を試算した結果、生活習慣病予防やフレイル・認知症予防で、およそ20年間で数百億円の医療費削減が見込める

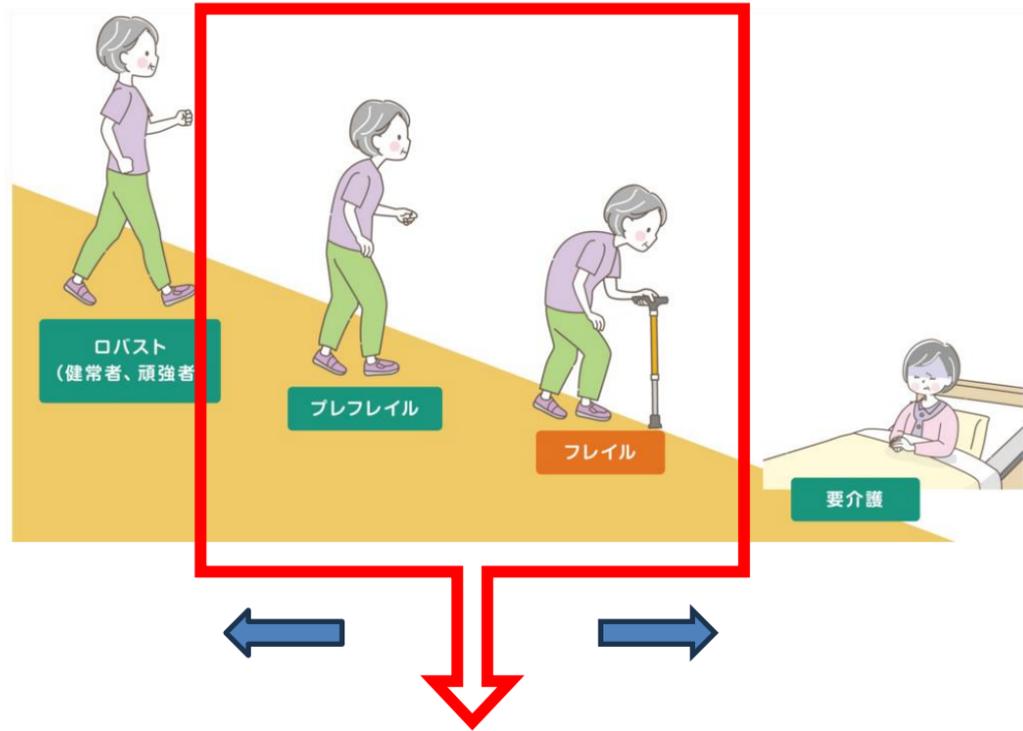
※内閣府ImPACTプロジェクト（橋本英樹）による、各疾患分野における予防対策を行った場合の60歳以上の医療費・介護費の試算結果に基づく（経済産業省におけるヘルスケア産業政策について：2018[https://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/healthcare/01metihealthcarepolicy.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/01metihealthcarepolicy.pdf)）

# 65歳以上の要介護度別認定者数の推移



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」  
 (注) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

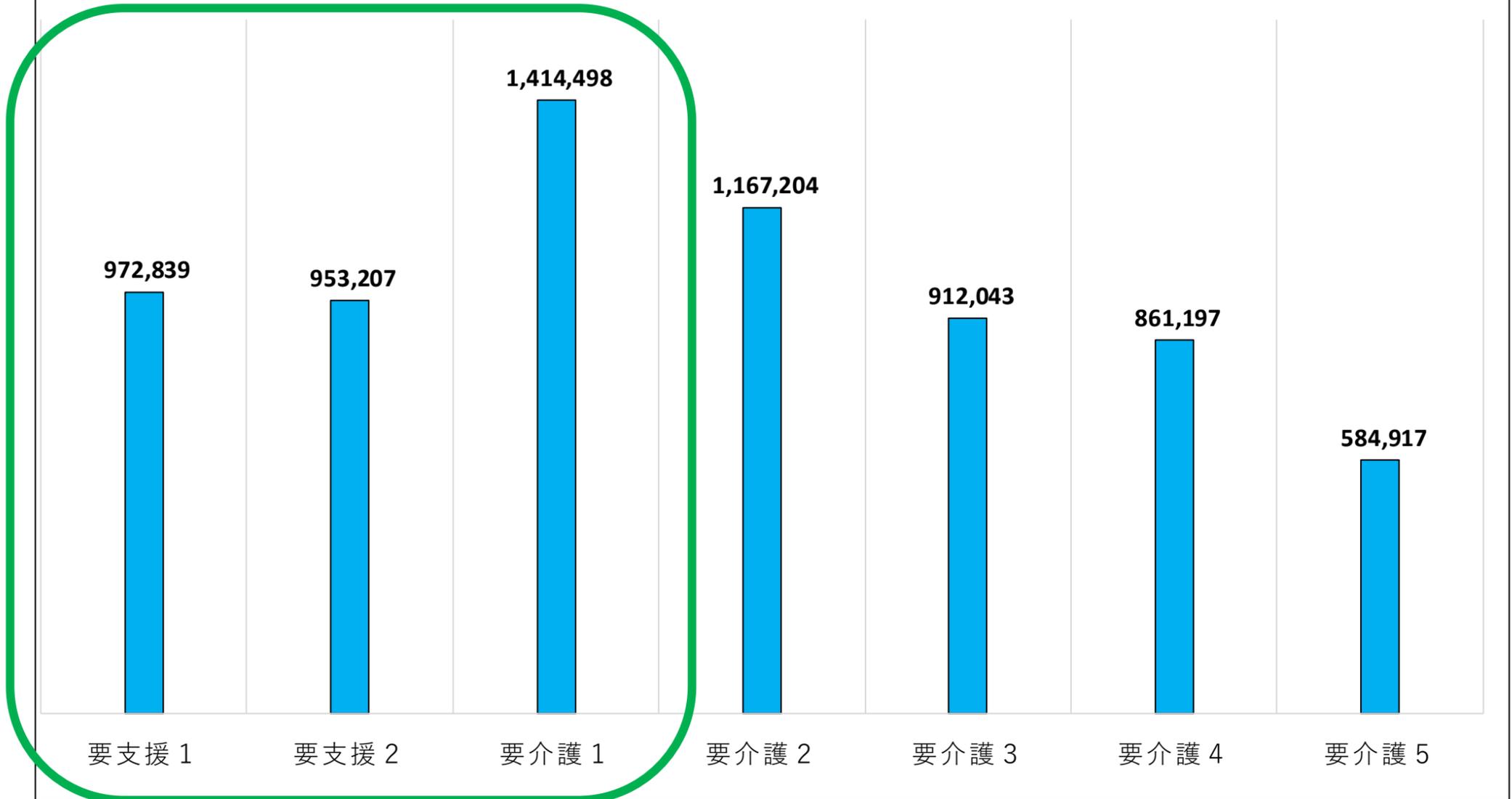
令和6年高齢社会白書(内閣府)



関わり方でどちら（健康・介護）にも動く時期

※また、介護認定を受けているだけの方の把握

### 令和3年6月現在の介護認定者数



$$\text{要支援1} + \text{要支援2} = \underline{\underline{1,926,046}}$$

$$\text{要支援1} + \text{要支援2} + \text{要介護1} = \underline{\underline{3,340,544}}$$

# 「予防」なぜ、重要なのか！

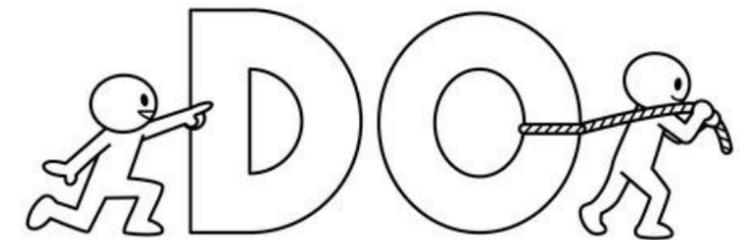
- サービスを足すほど  
→ 本人の“やらない力”が育つ
- フレイル初期・生活不活発の時・  
→ この時こそ、一番戻りやすい

要介護状態になる前の最後のブレーキ



# 2025年度 C型事業の伴走支援に関わって

事例紹介・・・



# 事例紹介 ①H氏

- ・ 80歳代 女性 要支援1 独居
- ・ 買い物以外は自宅にすることが多い。転倒歴有。
- ・ 昨年までヘルパーとして働いていた。
- ・ 夏の暑い時期にほとんど外出していなかったところ、長距離を歩くと息切れするように。
- ・ 趣味：カラオケ、ラジオを聴く

以前は買い物ついでに自然を感じながら散歩するのが好きだった。

## <疾患>

躁うつ病（経過観察中）、乳がん術後（通院フォロー中）

## 利用サービス

短期集中予防プログラム（11月～1月）、精神科訪問看護、  
マッサージ（インフォーマル）



### < **最初の印象** >

- ・身体状況的には、ある程度動ける方。よく話す。
- ・デイサービスへの通所に対しての不安が強いようで質問が多い。

### < **開始前の本人の意気込み** >

「運動大嫌いで宿題も苦手やけど、できることはしたい。」

### < **短期集中予防プログラム後の目標（1年後の目標）** >

「前は買い物ついでに自然を感じながら散歩するのが好きだった。  
もしまた歩けるなら、また自然を感じて歩きたい。」

## 苦勞したこと

- ・いわゆる「面談」の時間が、十分にとれなかった。  
就労の相談をしてこられ、答えられず。

## 工夫したこと

- ・悩みや困り事を具体的に話してくれることが多かったため、  
ある程度の質疑を事前に予測し、回答を準備した。

## 支援後の利用者を見ての印象・感想

- ・80歳からでも、本人がやる気になれば元気になれる。
- ・最終的には自力で就労活動にもつながり、嬉しく思う。

## 就労その後（3W後の様子）

- ・作業所には休まず言っている。散歩もしている。肩はまだ痛むので、デイで習った運動はやっていない。電話での声は、明るく元気そう。

## 事例紹介 ②O氏

- ・ 70歳代 男性 要支援1 妻と2人暮らし
- ・ 自宅で過ごすことが多い。歩くことが辛く、絶望感を感じる。外出はタクシー移動が主。徒歩では10分も歩けない。
- ・ 趣味：インターネット競馬、音楽鑑賞  
歩いていた頃は、友人と飲みに行くことが好きだった。年2回、妻と温泉など国内旅行に行っていた。



### < 疾患 >

腰部脊柱管狭窄症、腰椎急性すべり症、糖尿病

腰部、右下肢のしびれ（+） 手術・リハビリを受け、在宅復帰

### < 利用サービス >

短期集中予防プログラム（11月～1月）、介護予防福祉用具貸与（トイレ手すり、浴室内いす）、ベッド（自費）

## < **最初の印象** >

- ・ 歩行不安定。心配。
- ・ 自分から意志表出をあまりしない。受け身のコミュニケーション。  
…いきなり難しい人が来てしまったな。

## < **開始前の本人の意気込み** >

「3か月だけならがんばってみる」

## < **短期集中予防プログラム後の目標（1年後の目標）** >

「今は歩くのが辛くて絶望感を感じることもある。

改善できるなら旅行行きたいな。」

## 苦勞したこと

- ・自発的な発言少なく、困りごとに対する受け答えができにくかった。

## 工夫したこと

- ・他のスタッフにも協力してもらい、雑談などから話を聞き出した。
- ・看護師からステップでの口腔機能訓練について、詳しく説明をしてもらった。

## 支援後の利用者を見ての印象・感想

- ・動きも表情も良くなった。特に表情が豊かになった。
- ・自ら行動することの重要性に気づき、やればできるということを自覚してもらえた。

## 終了後（3W後の様子）

- ・奥さんより、あまり動いていない。指導した体操はしていない。
- ・1度、友達と外食に行った。歯の治療は継続している。
- ・奥さん曰く、動きは「以前とあまり変わらない」と。

# 短期集中予防プログラムを実施して

## 難しかった・大変だった

- 利用者への説明と理解：入口時点での説明が重要。体験利用の設定。
- 利用者の情報収集：情報が少ない中での開始。特に初回が大変。
- 卒業後のイメージ：地域資源等、出口部分の知識がなかった
- 人員体制：ほぼ満員の中で実施。リハ職1名で対応。

## やりがい・気づき

- 本人がやる気になれば、何歳でも元気になれる！
- 地域包括支援センターとの連携が大事

# C型事業の伴走支援から見えてきたこと



# 可能性と実装の視点



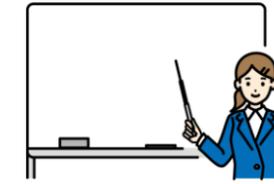
## よかった点

- 生活目標の言語化  
→利用者自身の行動選択の機会
- 3ヶ月という期限設定  
→『卒業』を意識した関わり
- 実際に  
→就Bへの移行というアウトカム



## 現場の実装から 見えてきたこと

- 既存の通所介護PG  
→集団化・構成化されたサービス設計
- C型としての関わり  
→日常業務の”合間”で行われた
- 結果として  
→全く新しい業務ではなく、  
『既存業務の再定義』に近い形で運用



## 今後に向けた示唆 (次に活かす視点)

- ① 人  
職員が『何のためのC型』を共有できること
- ② 構造  
既存サービスの流れで無理なく組み込める設計
- ③ 支援像  
『やってあげる』ではなく  
『本人が動くことを後押しする支援』

C型は『卒業』を出す制度ではなく、『支援の質を確認し、見直してみる』ではないか？

# 処方箋①【概念】：通所しなくても生活できる力を支える「リエイブルメント」

施設内での運動



地域生活（リエイブルメント）



何に向けての運動なのか？



C型サービスのゴールは、施設内での運動機能向上ではありません。

「通所しなくても自分たちでやる」ことを後押しする支援です。

この定義を現場と合意形成することが、すべてのスタートラインになります。

# 「体力の向上だけで良いのか？」



体力の向上

Hauser.er.al  
(2003)

Tinetti.er.al  
(1994)

心理的改善

- ◆グループ効果
- ◆人とのふれあい  
プログラム（レク）
- ◆ボランティア（役割）

仲間づくりが大切

Hauser.er.al(2003)

「Cognitive impairment decreases postural control during dual tasks in geriatric patients with a history of severe falls.」

トレーニング群の改善した運動能力は、トレーニング後の身体的活動性につながっていない。外部からの支援がないと、以前の習慣的な生活スタイルに戻ってしまう。

活動的（主体的）な生活

Gardner.er.al(2000)

「Improved function outcome following exercise rehabilitation」

好きなことをやる  
必要と思っていることをやる  
Social interactionの活用

※運動だけでは活動的  
にならない！

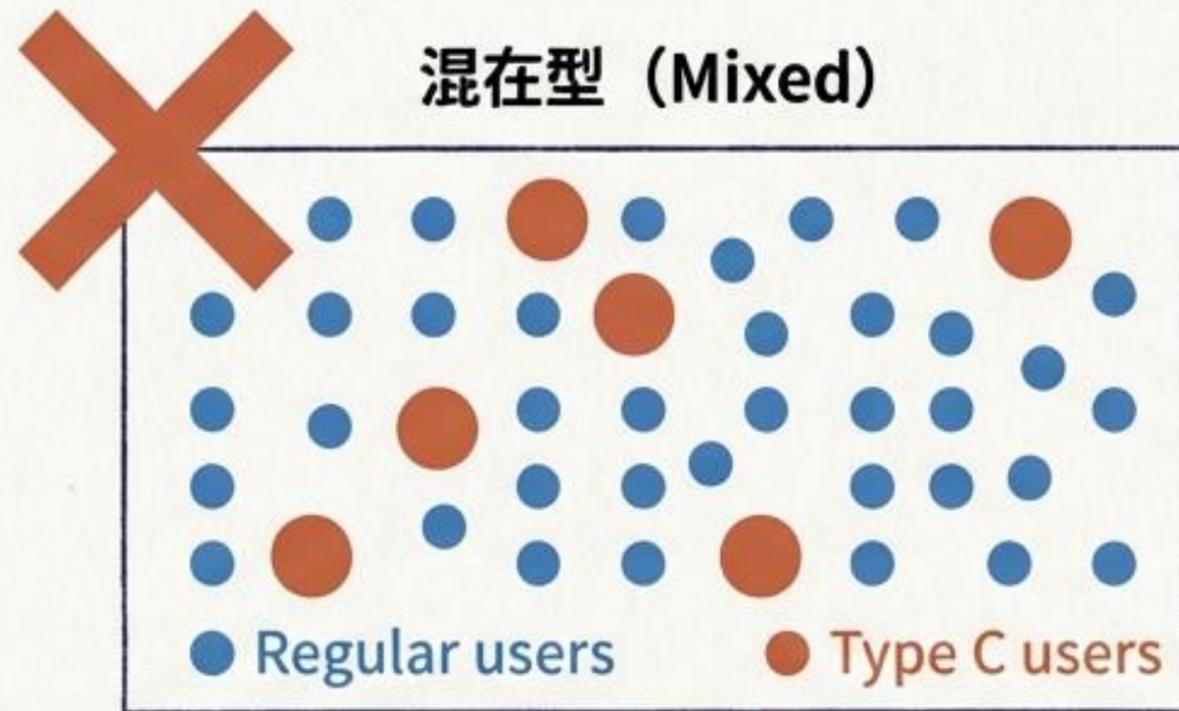


<参考>

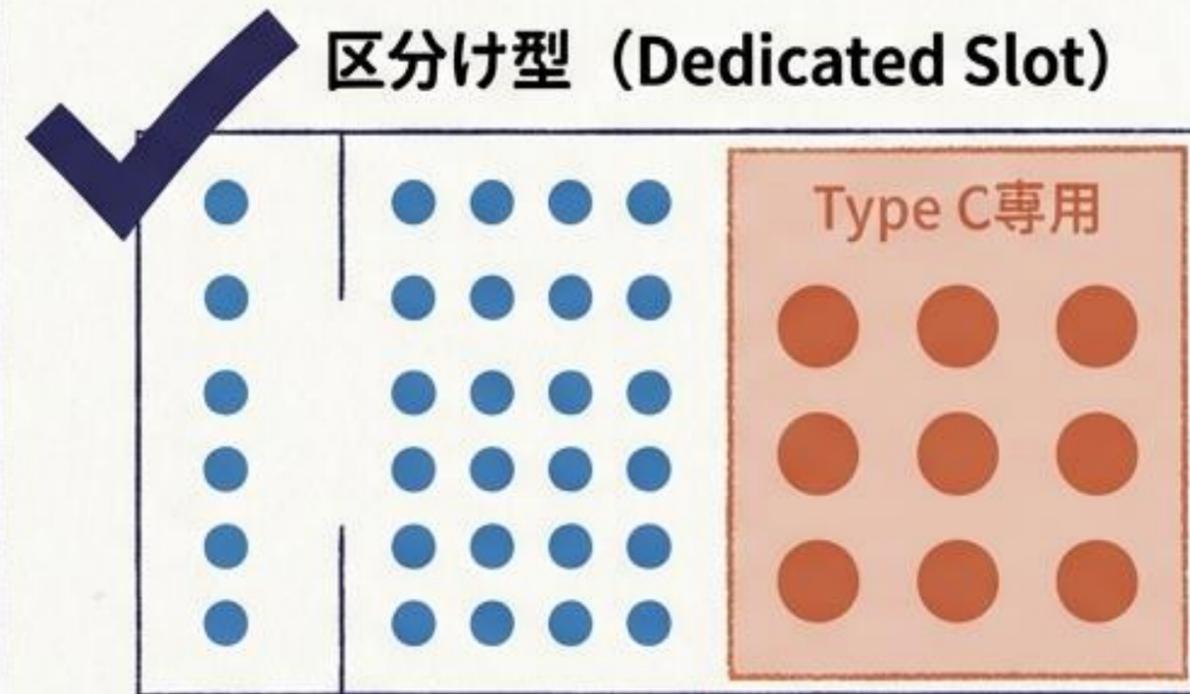
長崎大学 松坂教授 資料

小倉リハビリテーション病院院長 浜村先生 資料

## 処方箋②【構造】：既存利用者を「動かす」のではなく、専用の「枠」を作る



無理がある



C型専用の論理で動く

混ぜない勇気を持つ

「通常の利用者がいる席をどかせてC型を入れる」のは無理があります。  
最初から「C型専用の時間枠・定員」を確保し、既存のプログラムとは異なるロジック（柔軟な面談時間の確保など）で運用できる環境を用意してください。

## 処方箋③【価値】：卒業へのアプローチは「支援の質」を問い直す機会になる

利用者を卒業させることを考えるプロセスは、漫然としたケアを見直し、事業所全体の支援を高めるきっかけにもなります。

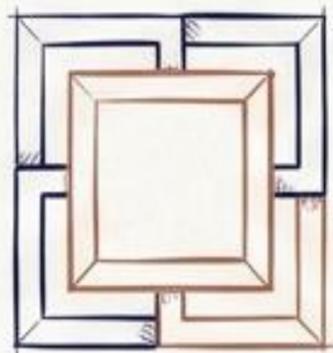
「いつまでも通ってもらおう」から  
「地域にお返しする」へ。

この転換が、選ばれる事業所への  
進化につながります。



卒業 = 顧客喪失ではない

# C型導入に向けた3つのチェックポイント



## ✓ 1. 構造 (Structure)

既存PGに無理やり組み込もうとしていないか？  
専用の枠や時間を確保できているか？



## ✓ 2. 人 (People)

現場スタッフと「なぜやるのか」を合意できているか？  
業務命令だけで動かそうとしていないか？

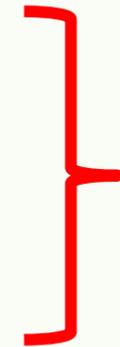


## ✓ 3. 支援像 (Vision)

「通所しない生活」をゴールとしてイメージできているか？

終了後・・・

- 就労Bを継続
- 口腔ケアを継続



**C型実施前と行動が変わった  
(行動変容)**



## 出口の課題

入口、実施、出口を一体的に考える

少し元気になった心身を細く長く保つ  
ていく仕掛け

その一手段として・・・

## 就労的活動の実践

出番を作る！



# ①：清掃業の企業とコラボ



病院で使用する  
フェイスタオル  
バスタオル



高齢者、障害、得意不得意などの要件を考慮して役割分担

4つ折り  
バスタオルは8つ折り  
タオル：〇円/枚  
バスタオル：〇〇円/枚

納期  
決められた期日に納められれば  
△円高

## ②：手芸教室、手芸コンテンツ作成、 講師育成などの全国展開をしている企業



郵送・NPO受け取り

コンテンツ開発

材料選定・調達

材料の仕分け

材料の袋詰め

中身の確認

企業受取り

高齢者、障害、得意不  
得意などの要件を考慮  
して役割分担

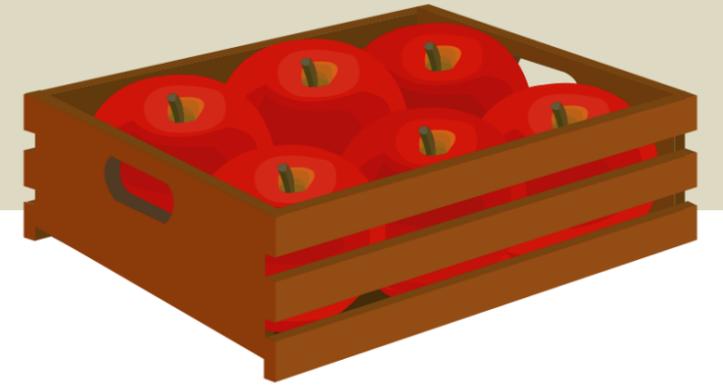
詰めやすいよ  
うに仕分け

役割分担  
袋にA部品だけ  
入れる人  
袋にB部品だけ  
入れる人

部品等揃っ  
ているか  
確認

郵送・企業受け取り

# ③：水産加工品（カラスミ）を製造している企業から商品を入れる木箱の依頼



企業より受注

製材所から材料調達

組み立て

仕上げ

出来上がり  
確認

企業受け取り

高齢者、障害、得意不得意などの要件を考慮して役割分担

組み立てやすいように工程を分解

ペーパーをかけるだけの役割

全部の製品を確認する



企業との連携の道が少しだけ見えてきた

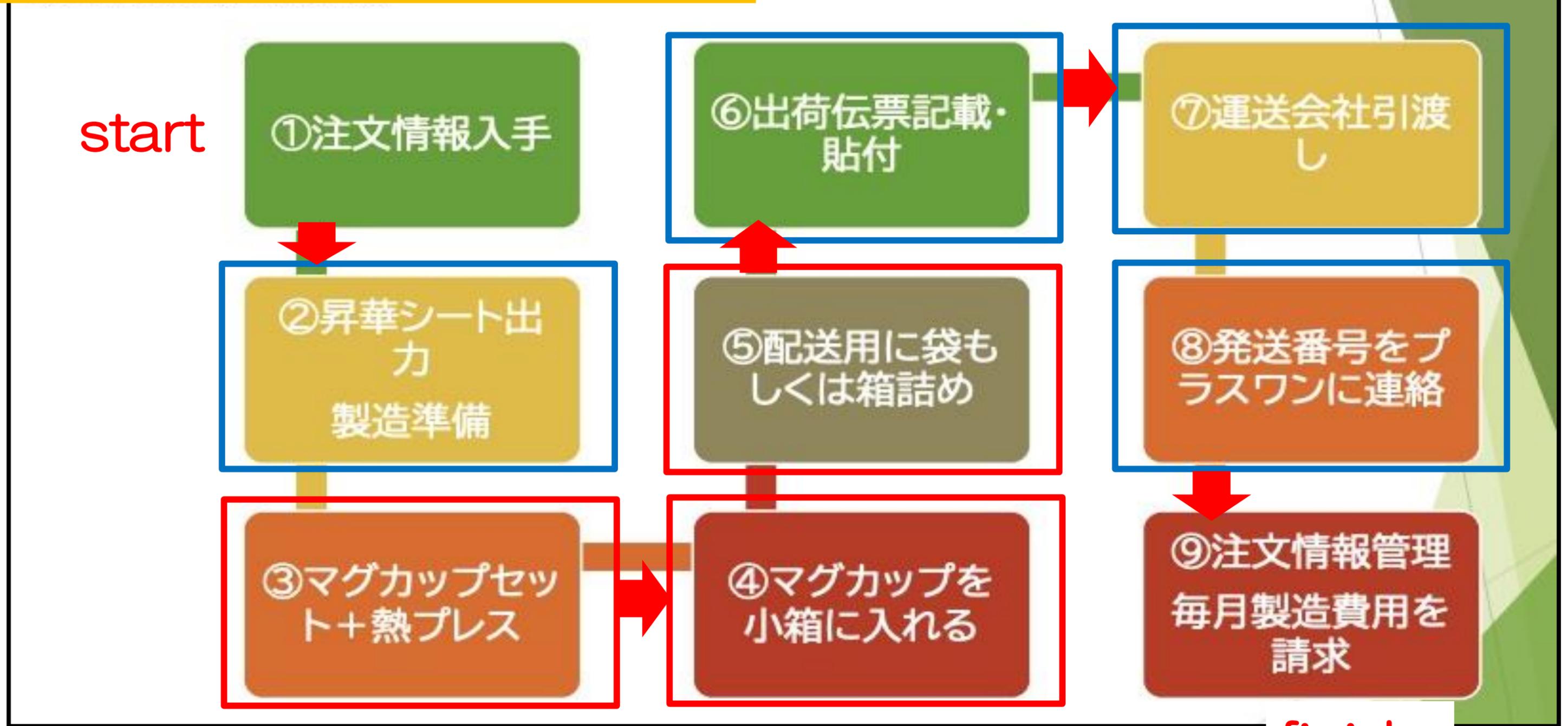
マネタイズをどうする？



## マグカップ（Tシャツ）プリント

※温度調節をしておけば、レバー操作と火傷対策で高齢者でも可能

# 製造の流れ（何処を行うか）

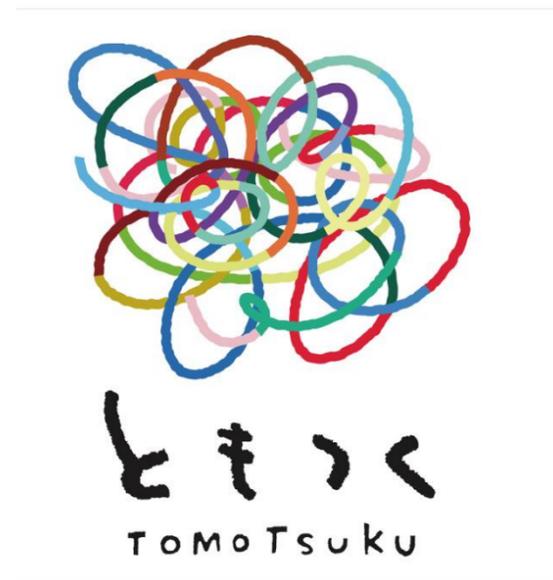


参加者（高齢者・障害者等）が実施する活動



法人が実施する活動

finish



**注文、  
受け付けます！**



# 宮崎県の水産加工会社とのコラボ！

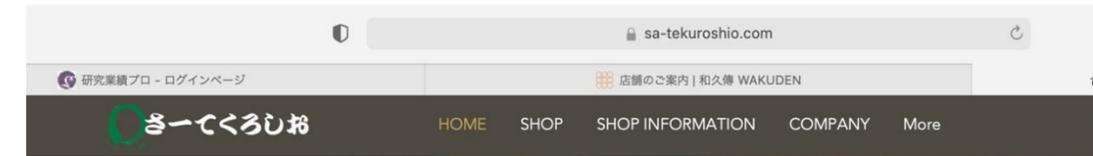
さーて黒潮（宮崎県門川町）

- カラスミを主体として、
- 鰹のカラスミオイルづけ
- ハモ骨ダシ、などなど



 <p>"ひなた黒潮からすみ"半割木箱入 ¥5,100 消費税抜き   送料別</p> <p>1</p> <p>カートに追加する</p>	 <p>"ひなた黒潮からすみ"片腹木箱入 ¥7,350 消費税抜き   送料別</p> <p>1</p> <p>カートに追加する</p>	 <p>"ひなた黒潮からすみ"両腹木箱入 ¥12,500 消費税抜き   送料別</p> <p>在庫なし</p>
--	--	--

 <p>"ひなた黒潮からすみ"ギフトセットA ¥6,500 消費税抜き   送料別</p>	 <p>"ひなた黒潮からすみ"ギフトセットB ¥8,100 消費税抜き   送料別</p>	 <p>"ひなた黒潮からすみ"ギフトセットC ¥6,500 消費税抜き   送料別</p>
--	--	--



CONCEPT

S:Senior A:Ability Te:Team/Technology





マグカップ

Tシャツプリント



仕事、ふれあい、楽しみ

確かな取り組みにするために！

研究として



男性(n=22,967)	女性(n=26,738)
散歩・ジョギング(27.4)	園芸・庭いじり(29.5)
園芸・庭いじり(25.3)	旅行(22.1)
旅行(24.1)	散歩・ジョギング(19.0)
読書(17.2)	読書(14.6)
パソコン(14.1)	手工芸(14.3)
作物の栽培(14.1)	作物の栽培(13.9)
カラオケ(11.8)	体操・太極拳(10.8)
釣り(11.1)	カラオケ(10.5)
囲碁・将棋(11.1)	グランドゴルフ(7.3)
ゴルフ(10.6)	舞踊・ダンス(6.4)
写真撮影(9.7)	絵画・絵手紙(4.9)
グランドゴルフ(9.5)	書道(4.8)
パチンコ(6.7)	茶道・華道(4.6)
14/25種類(5%以上)	11/25種類(5%以上)

以下の趣味を持っている高齢者において  
認知症を伴う要介護認定の発生が低かった。

【男女共通】  
グランドゴルフ  
旅行

【男性】  
ゴルフ  
パソコン  
釣り  
写真撮影

【女性】  
手工芸  
園芸・庭いじり

JAGES（日本老年学的評価研究）の調査データを利用

※要支援、要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者を対象(65-74：59.4%、75-84：35.5%)



経済産業省「サービス産業強化事業費補助金（認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業）」

## 軽度認知症の人に対する趣味教室の効果検証

(株)オールアバウトライフワークス  
東京都健康長寿医療センター研究所  
京都橘大学

新領域推進室室長  
社会参加と地域保健研究チーム  
健康科学部 作業療法学科 教授

三宅  
鈴木  
小川

2020—2022年度事業

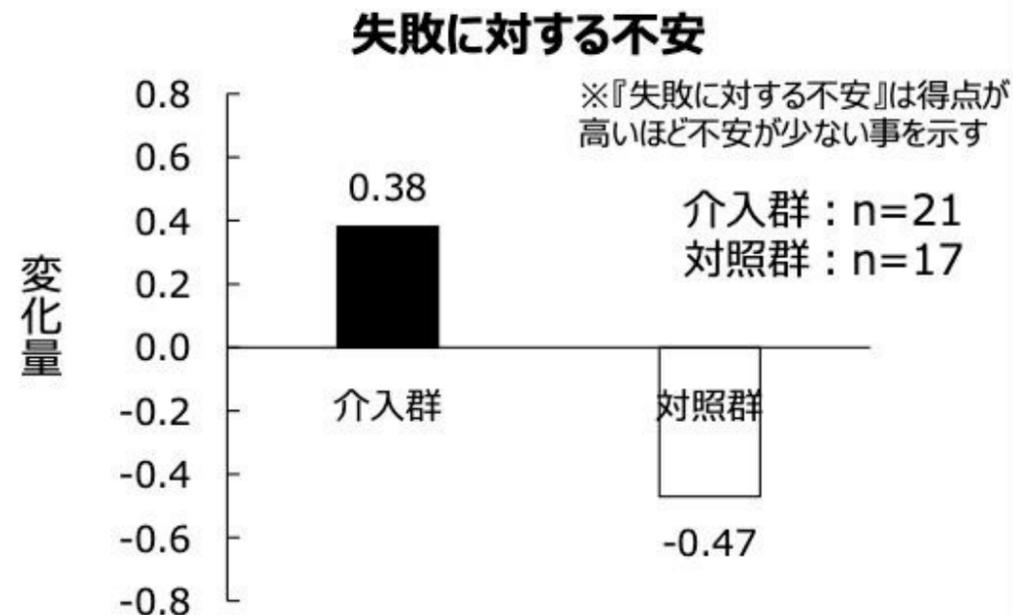
- ・ 前頭葉機能の改善傾向
- ・ セルフエフィカシーの向上
- ・ 不安感の軽減

## これまでの実証結果の例（株式会社オールアバウト）

- 令和2~3年度の実証初期段階の評価においては、趣味講座による介入により本人QOL指標（自己効力感（失敗に対する不安）や自尊心尺度等）の改善が期待できる結果となった。
- 今年度も本研究を継続し、引き続き評価を重ねていくことで統計的な側面でのエビデンスの質の強化を進めている。

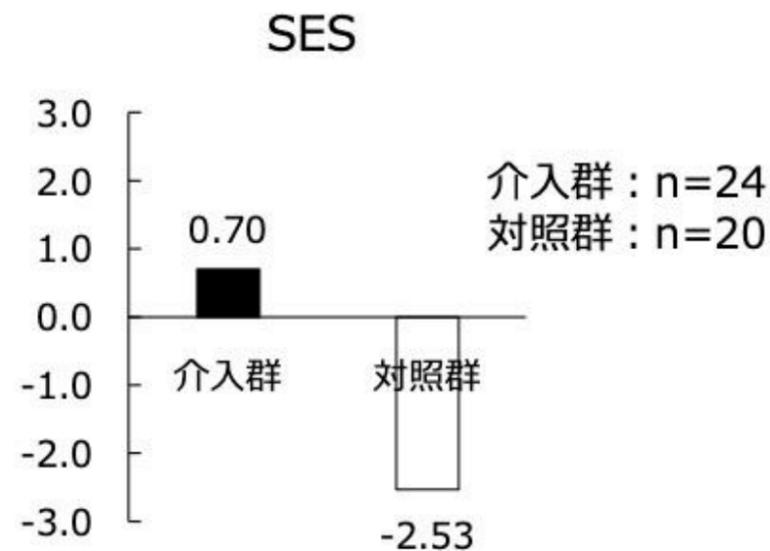
### 【令和3年度 無作為化比較試験】

#### 自己効力感（失敗に対する不安）の介入群と対照群の比較



変化量は事後から事前の値を減じる事で求めた。  
ベースライン値を共変量とする共分散分析において群の主効果が有意であった ( $p < .01$ )

#### 自尊感情（Rosenberg自尊心尺度；SES）

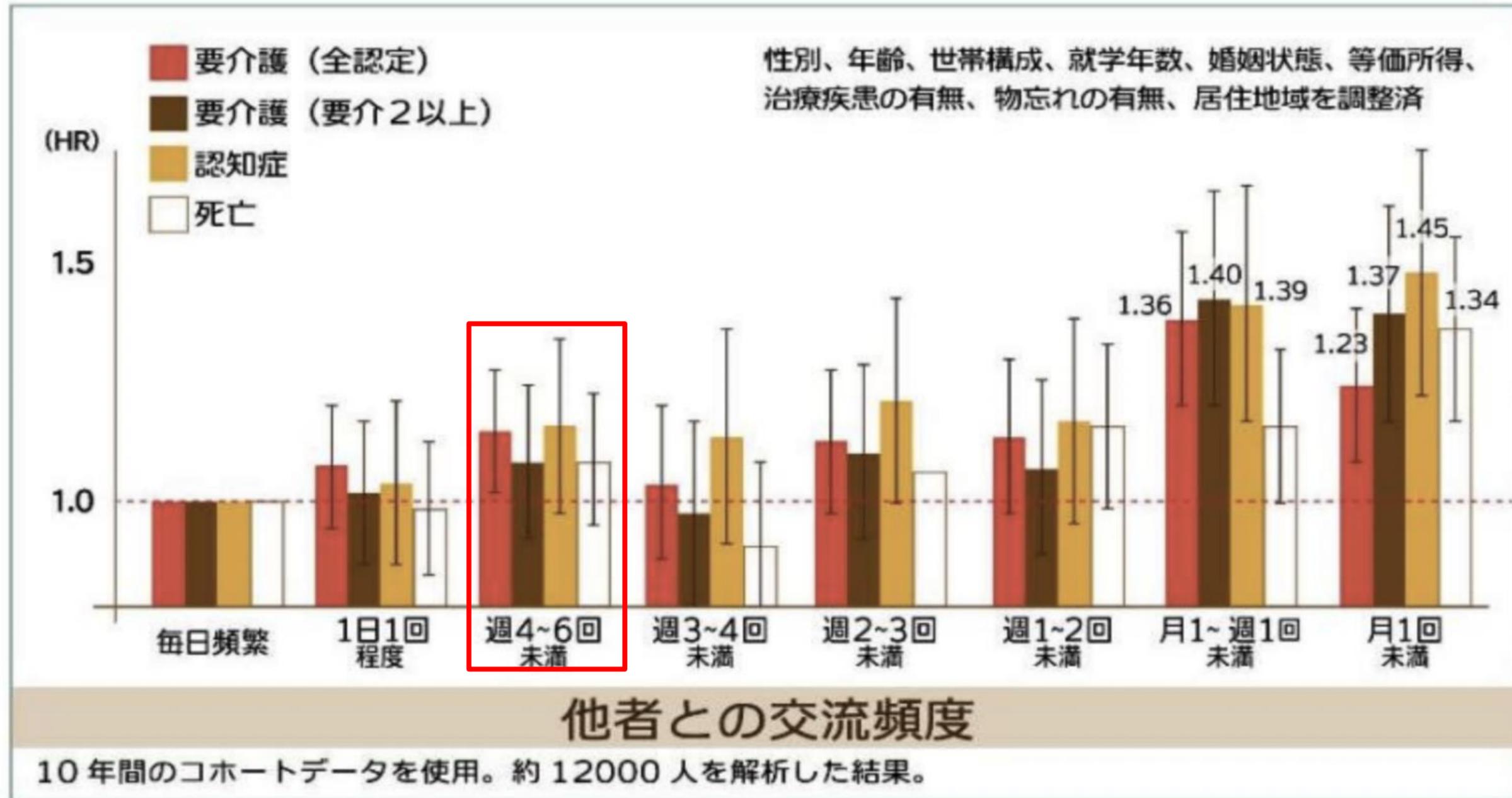


変化量は事後から事前の値を減じる事で求めた。  
ベースライン値を共変量とする共分散分析において有意な群間差がみられた ( $p < .05$ )

手芸講師と会話をしながらものづくりをすることで、軽度認知障害や軽度認知症の方の失敗に対する**不安感の軽減**や**自尊感情が向上**する結果が得られた。

人と触れ合いながら自分にとって楽しいと思えることをすることで、心の安定感や生活に向けた前向きな気持ちが喚起されることが示唆された。

# 人との交流は週1回未満から健康リスクに ~月1回未満では1.3倍、早期死亡に至りやすい~



齊藤雅茂、近藤克則、他：日本公衆衛生学会62(3)2015

## 金銭的対価が介護保険サービス利用者の生きがいにどのように寄与しているか

【対象となる活動を「仕事」とであると認識する】の意識づけが必要であり



その「仕事」としての意味づけにより

- 【自信と責任を持って活動を行う】
  - 【良いストレスを得る】
  - 【生活行為の範囲を拡大する】
  - 【社会からの注目を受けて、社会性を発揮する】
- など

- ・自己充足（効力感）
- ・公共善の達成（役割）

金銭的対価はこの2つの側面から利用者の生きがいに肯定的な影響を与えていることを示唆

就労・有償ボランティア活動を提供する新しい介護施設の計画に関する研究（科研費・基盤B：2023）  
主任研究者三浦先生（京都大学）、小川（京都橘大学）

## Processing of Social and Monetary Rewards in the Human Striatum

Keise Izuma,<sup>1,2</sup> Daisuke N. Saito,<sup>1,3</sup> and Norihiro Sadato<sup>1,2,3,4,\*</sup>

<sup>1</sup>Department of Cerebral Research, Division of Cerebral Integration, National Institute for Physiological Sciences (NIPS), Aichi, Japan

<sup>2</sup>Department of Physiological Sciences, School of Life Sciences, The Graduate University for Advanced Studies, Kanagawa, Japan

<sup>3</sup>Japan Science and Technology Agency (JST)/Research Institute of Science and Technology for Society (RISTEX), Tokyo, Japan

<sup>4</sup>Biomedical Imaging Research Center (BIRC), University of Fukui, Fukui, Japan

\*Correspondence: sadato@nips.ac.jp

DOI 10.1016/j.neuron.2008.03.020

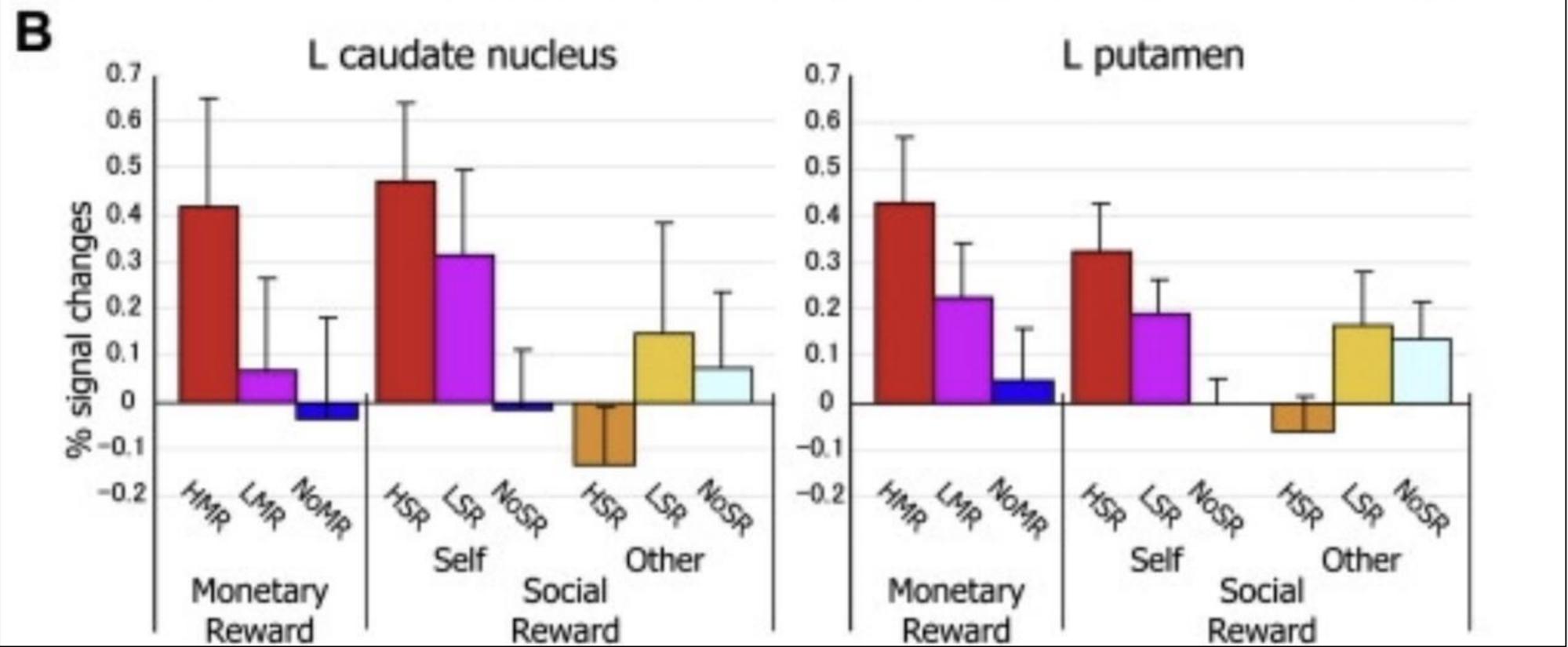
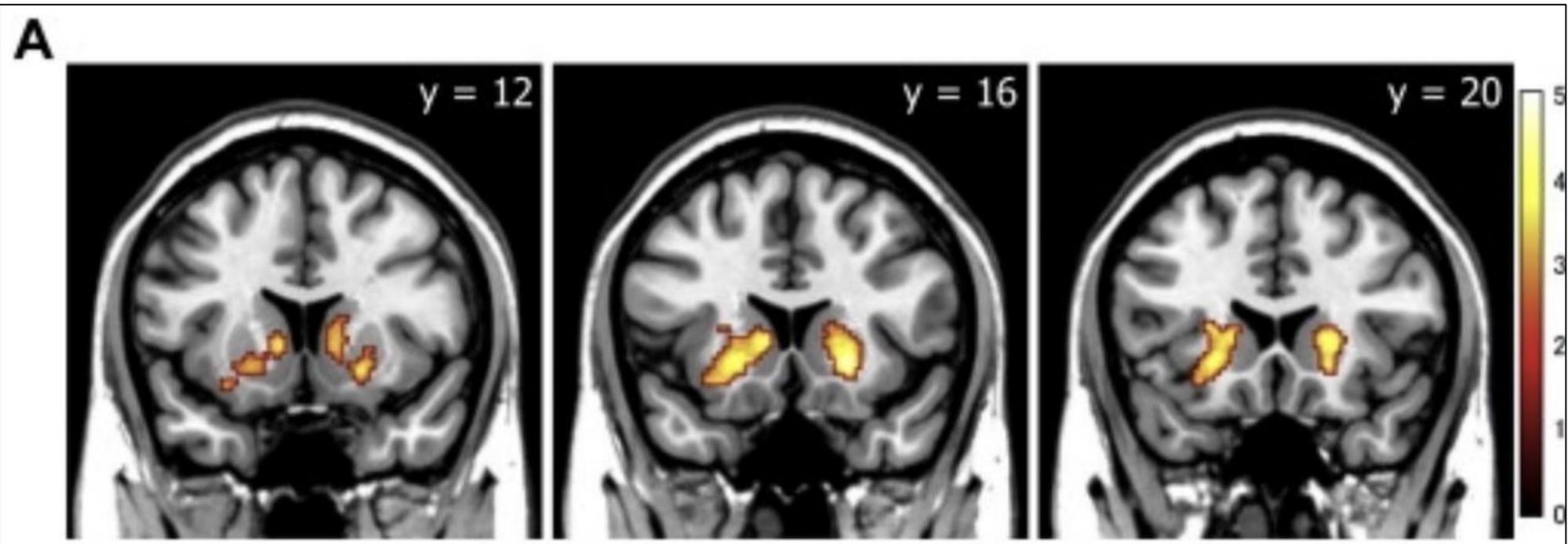
### SUMMARY

Despite an increasing focus on the neural basis of human decision making in neuroscience, relatively little attention has been paid to decision making in social settings. Moreover, although human social decision making has been explored in a social psychology context, few neural explanations for the observed findings have been considered. To bridge this gap and improve models of human social decision making, we investigated whether acquiring a good reputation, which is an important incentive in human social behaviors, activates the same reward circuitry as monetary rewards. In total, 19 subjects participated in functional magnetic resonance imaging (fMRI) experiments involving monetary and social rewards. The acquisition of one's good reputation robustly activated reward-related brain areas, notably the striatum, and these overlapped with the areas activated by monetary rewards. Our findings support the idea of a "common neural currency" for rewards and represent an important first step toward a neural explanation for complex human social behaviors.

when the benefits of doing so outweigh the costs. Importantly, the benefits in such a case take the form not only of material rewards, such as food and money, but also of more abstract rewards, such as social approval from others. This theory provides a base from which to explore complex human social decision making and behaviors in the simple terms of "reward."

In the present study, from among the many possible rewards in human social interactions, we focused on an individual's reputation or the impression of an individual formed by others. The importance of processing one's own reputation in human social decision making has been highlighted by the theoretical research on the evolution of human cooperation (Fehr and Fischbacher, 2003). It has been shown that cooperation in iterated games is significantly affected by the concern for reputation (Kreps and Wilson, 1982), and that an individual's motivation to acquire a good reputation or "image score" (Milinski et al., 2001; Wedekind and Milinski, 2000) might drive cooperation through indirect reciprocity. Social psychological studies have also shown that social approval has a profound impact on everyday decision making (Benabou and Tirole, 2006). The recognition that one has a good reputation can induce a feeling of happiness (i.e., a hedonic component of reward or "liking"), and individuals are often motivated to seek such social approval (i.e., a motivational component of reward or "wanting") according to behavioral evidence. For example, human subjects were motivated to present themselves in a positive manner or to engage in prosocial behaviors when their perception of being watched by others was enhanced (Bateson et al., 2006; Haley

### INTRODUCTION

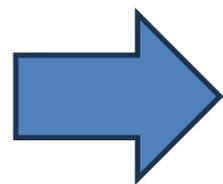


金銭的報酬と自分への良い評価は同じ脳部位（尾状核、被殻）で同じ活動のパターン

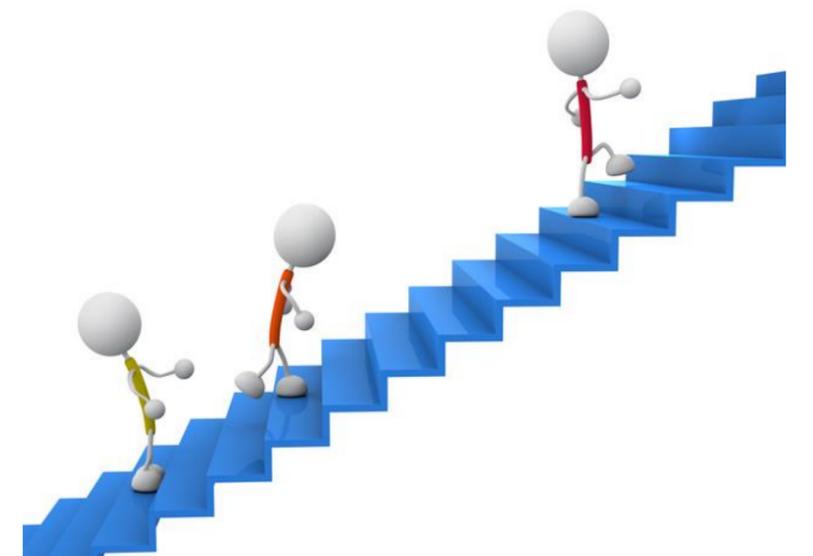
**予防**において身体機能の改善はもちろん大切だが体が強くなっただけでは、活動的（その人らしい）な生活にはなかなかならない。

心理的な改善が大切

（**Key Word**:自分の好きなことができる、出番がある、ワクワクする）



**継続する確率が高くなる！**



# 「心身機能の改善」から「社会的孤立の防止」へ

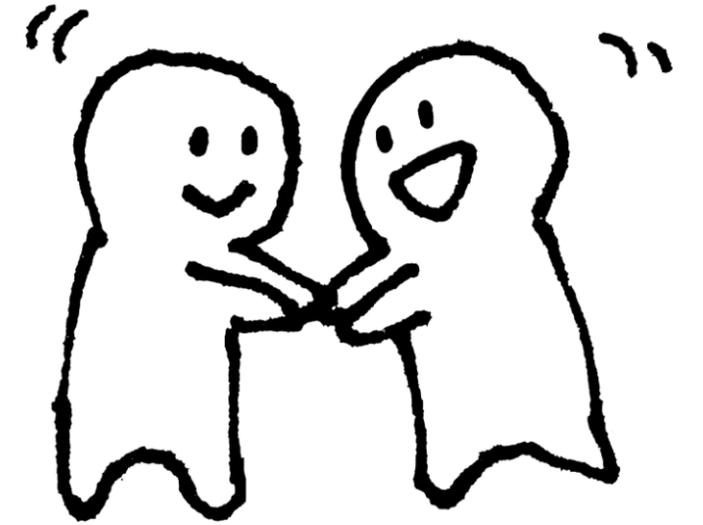


動けるようになって、行く場所と役割がなければ孤立する。

# 我逢人

出逢いこそすべて

一人じゃ・・・何もできない・・・



ご清聴ありがとうございました！